取扱説明書

播種機

THK6500

当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

播種機 THK6500 を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、**『播種機 THK6500』**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。**ご使用の前には必ず、この取扱説明書を熟知するまで**お読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになった後も**必ず製品に近接して保存**してください。

- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

- この取扱説明書を紛失または損傷された場合、速やかに当社にご注文ください。

- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店・ＪＡにご相談ください。

- ⚠印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

⚠ 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性がある物を示します。
⚠ 注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント**「安全に作業をするために」**を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください

目　　次

はじめに

１.　安全に作業をするために・・・・・・・・・３～６

２.　安全銘板の貼り付け位置・・・・・・・・・７

３.　本製品の使用目的について・・・・・・・・７

４.　各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・８

５.　仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

６.　組立要領・・・・・・・・・・・・・・・・９～１２

７.　運転及び操作・・・・・・・・・・・・・・１３～２１

８.　点検整備及び保管上の注意・・・・・・・・２２～２３

９.　故障の診断と処置・・・・・・・・・・・・２４～２７

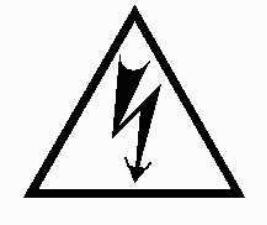
1. 安全に作業をするために

ここに記載されている注意事項を守らないと、
死亡を含む障害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

⚠ 警告　**アース線を必ず取付ける**

万一の感電事故を防ぐために必ず、アース線を
取付けてください。

【守らないと】
感電事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告　**子供を近づけない**

子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】
障害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告　**電機部品・コードを必ず点検**

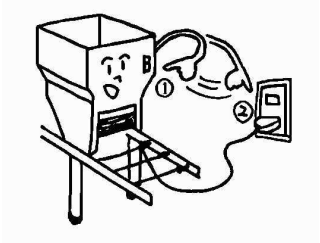
配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや
接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】
ショートして、火災事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告　**２人以上で作業をする時は、お互いに合図しながら機械を始動する**

【守らないと】
思わぬ事故になることがあります。

⚠ 警告　**点検・整備時には必ず電源を「OFF」にし、差込みプラグを抜く**



点検・整備は、必ず電源スイッチを「OFF」にし、
差込みプラグを抜いてから行ってください。

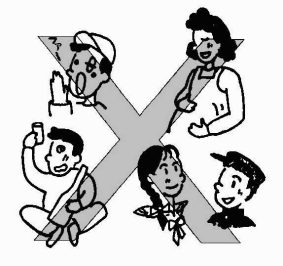
【守らないと】
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意　**使用前に取扱説明書を必ず読む**

使用前に取扱説明書をよく読んで、安全で正しい作業をしてください。

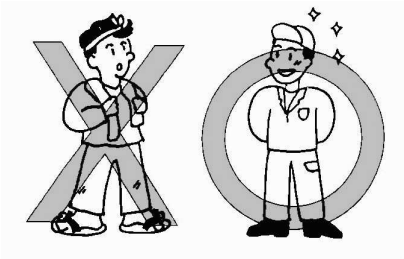
【守らないと】
傷害事故や機械の破損を引き起こします。

⚠ 注意　**こんな時は作業しない**



- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
- 酒を飲んだ時
- 妊娠している時
- 18 才未満の人

⚠ 注意　**作業に適した服装をする**



はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。
作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 注意　**点検・整備を行う**

機械を使用する前と後には必ず点検・整備をしてください。

【守らないと】
事故・ケガ、機械の故障を招くおそれがあります。

⚠ 注意　**電源はAC１００Ｖ専用コンセントに接続する**

また、たこ足配線はおやめください。

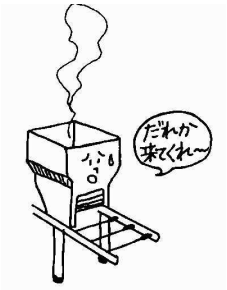
【守らないと】
火災事故の原因となります。

⚠ 注意　**作業中停電した場合は、必ず電源スイッチを切る**

【守らないと】
通電時、急に回りだし思わぬ傷害事故を起こします。

⚠ 注意　**作業を中断・修了した場合は、必ず電源スイッチを切る**

【守らないと】
ショートして、火災の原因になることがあります。



⚠ 注意　**カバー類は必ず取りつける**

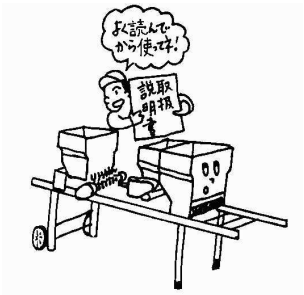
点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取りつけてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意　**機械を他人に貸す時は、取扱方法を説明する**

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】
傷害事故や、機械の破損を招くおそれがあります。



⚠ 注意　**機械の改造禁止**

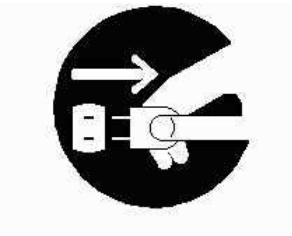
純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。
また、改造はしないでください。

【守らないと】
事故・ケガ、機械の故障を招くおそれがあります。

⚠ 注意　**後始末を忘れずにする**

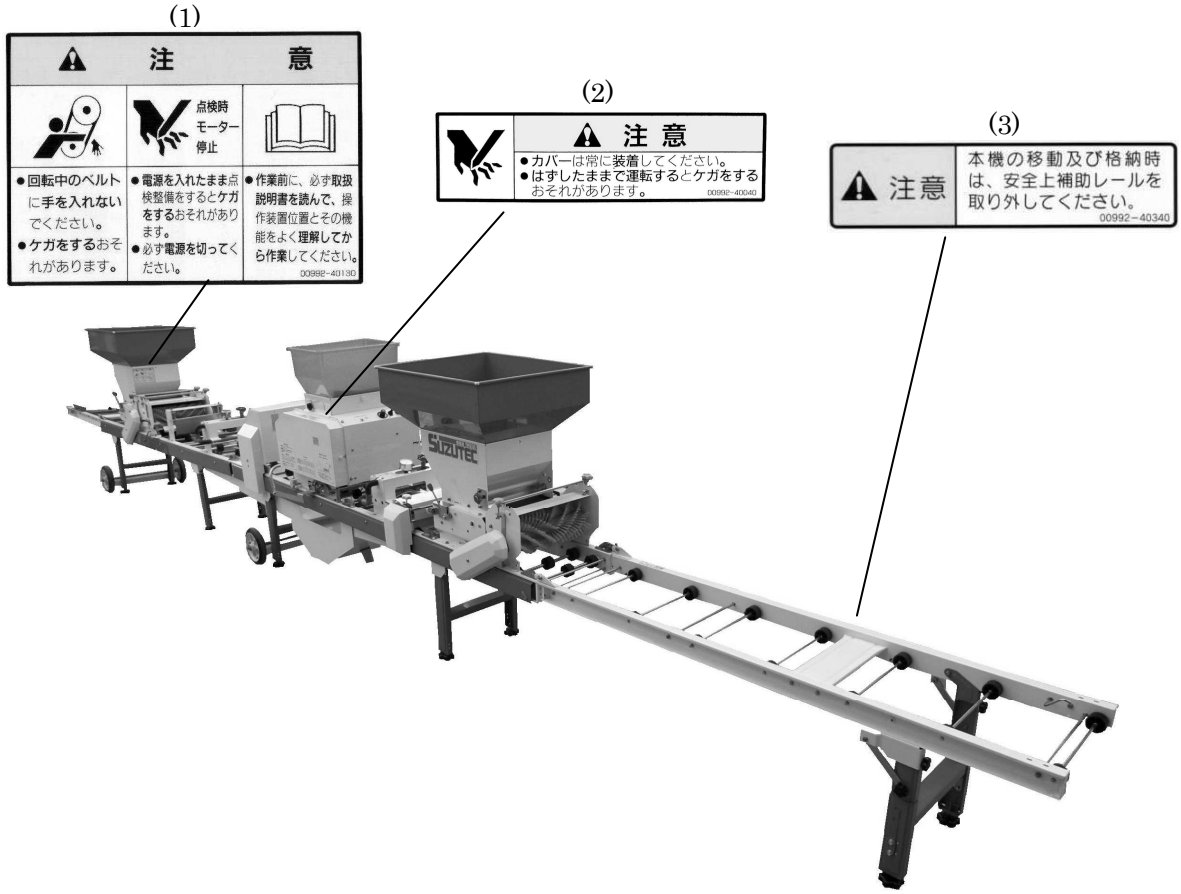
長時間使用しない時は、差込みプラグをコンセントから
抜いてください。

【守らないと】
火災事故や、感電故障を招くおそれがあります。



2. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業をしていただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しい物に貼り直してください。



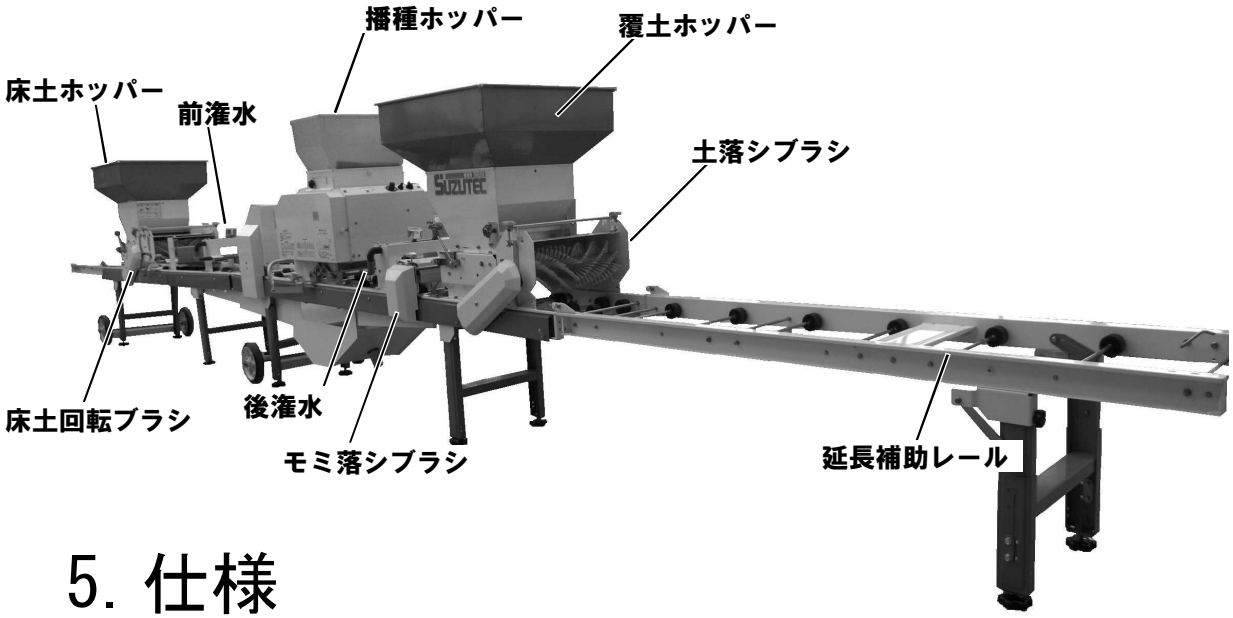
紛失または破損された場合には、当社へ下記の表を参考にご注文ください。

No	部品番号	部品名称
(1)	00992－40130	注意ラベル　CL-10
(2)	00992－40040	注意ラベル　CL-3
(3)	00992－40340	注意ラベル　CL-20

3. 本製品の使用目的について

本製品は、育苗箱への土入れ・播種・覆土の作業機としてご使用ください。
目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

4. 各部の名称



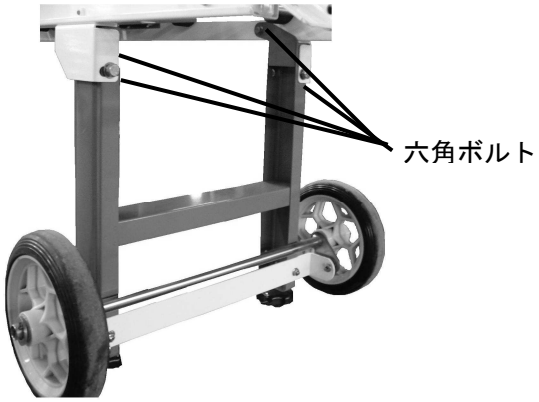
5. 仕様

型　　式		THK6500
機体寸法	全 長	7,115 ㎜
	全 幅	540 ㎜
	全 高	1,125 ㎜
重　　量		185kg
動　　力	搬 送	0.1kW／三相 200V（AC100V インバータ制御）
	播 種	40W／三相 200V（AC100V インバータ制御）
	播種回転ブラシ	40W／単相 100V
	電源	100V
ホッパー容量	床 土	72 ﾘｯﾄﾙ
	播 種	28 ﾘｯﾄﾙ
	覆 土	72 ﾘｯﾄﾙ
灌水量	前潅水	0.6～1.2 ﾘｯﾄﾙ／箱
	後潅水	0.4～0.7 ﾘｯﾄﾙ／箱
播種量の調節		インバータによる播種ローラーの回転数制御方式
播種量(催芽籾)		80～250g／箱（120～380ml／箱）
床　土　量		2.4～4.0 ﾘｯﾄﾙ／箱（15～25mm 厚）
覆　土　量		0.5～1.5 ﾘｯﾄﾙ／箱（3～9mm 厚）
土均し方法		ダブル回転ブラシとスミ取り装置（前）（後）
能　　力		400・500・600 箱／時（50Hz，60Hz）

6. 組立要領

6.1　脚の組立

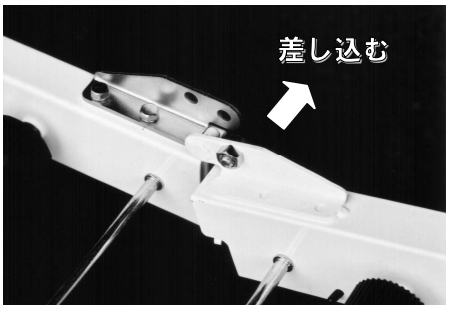
折りたたまれている脚を立てて、六角ボルトでしっかりと固定してください。



6.2　補助レールの組立

延長補助レールを連結し、R ピンで抜けないように固定してください。

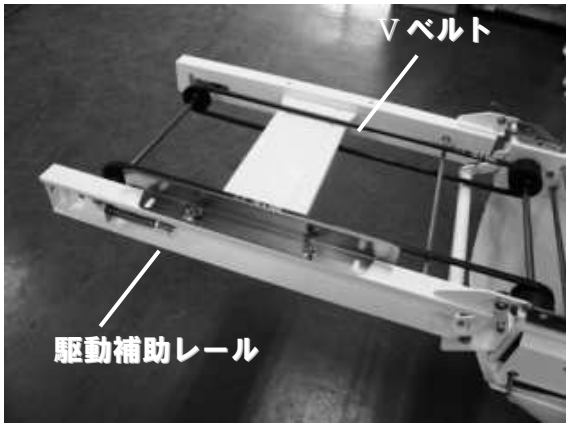
なお、本機を移動する時は安全上補助レールを外してください。

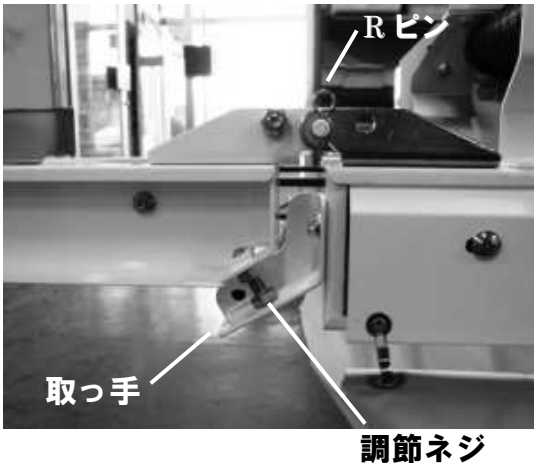


6.3　駆動補助レールの組立

(1) 取っ手が付いている方に駆動補助レールを組付けます。
　　V ベルトをプーリーに掛けて組付けてください。

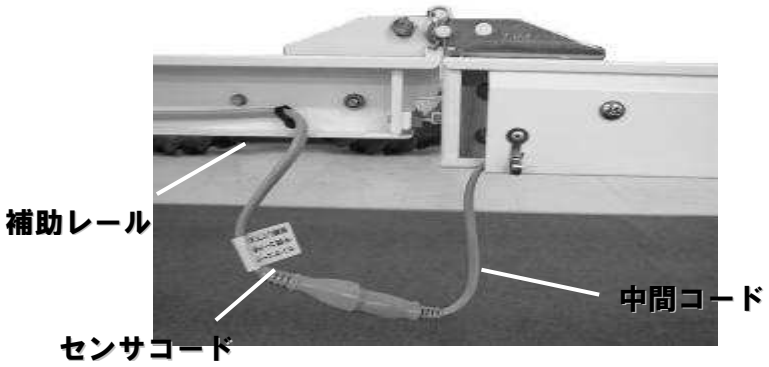
(2) 調節ネジで駆動補助レールの水平を調節してください。





6.4　センサコードの接続

補助レール先端にあるセンサから出ているコードプラグを、駆動部より出ている中間コードと接続してください。



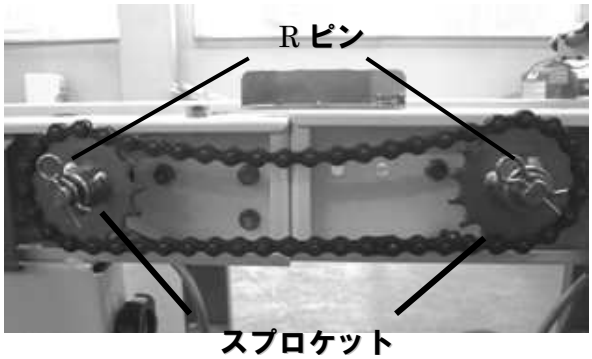
6.5　床土部レールと播種･覆土部レールの連結

(1) 播種･覆土部のレールストッパーシャフトに連結金具のフックを引っ掛けて連結します。

注)播種･覆土部レールと床土部レールの上面が同じになる様に脚先端についている高さ調節ボルトにて調節してください。

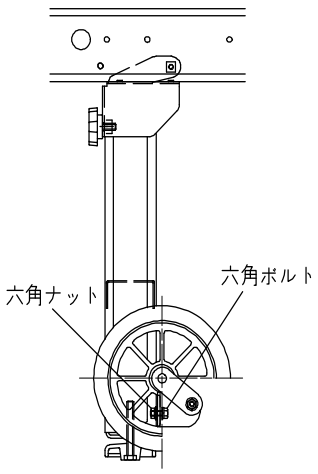
(2) 写真の様に、スプロケット 15T 及びローラーチェンを組付け R ピンを差してください。

(3) 危険防止のため、必ず写真のようにチェンカバーを蝶ボルトにて組付けてください。



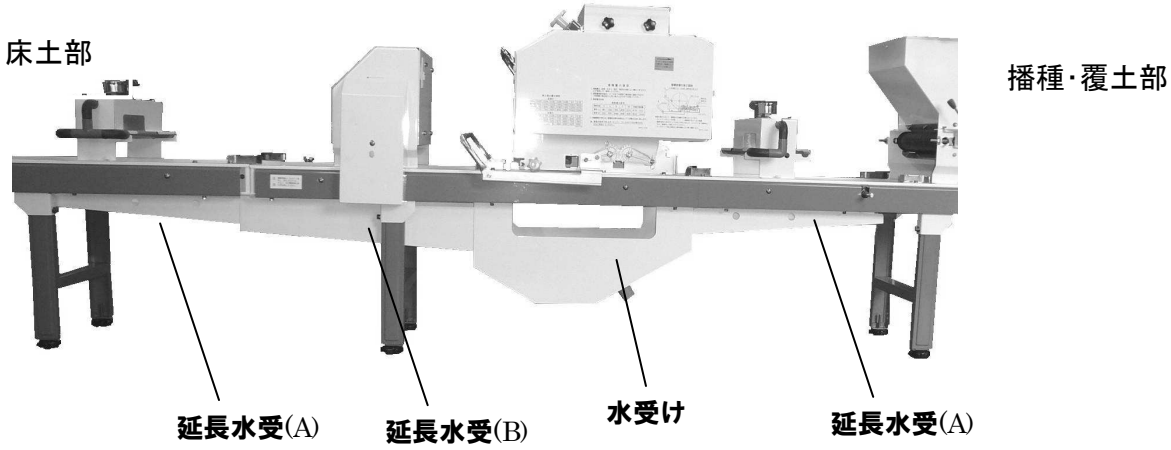
6.6　キャスターの組立

キャスターを付属の六角ボルトと六角ナットで脚に固定してください。



6.7 水受け、シート及びモミ受けカゴの組立

(1) 各シート（土受けシート、覆土受けシート）にある穴をフックに引っ掛けてください。
(2) 水受け、及び延長水受を六角ボルトにて組付けてください。
(3) モミ受けカゴを差し込んでください。



6.8　補助ホッパーの組立

床土部と覆土部に大きい方の補助ホッパーを、播種部には小さい補助ホッパーを付属のボルトと化粧ナットにて固定してください。

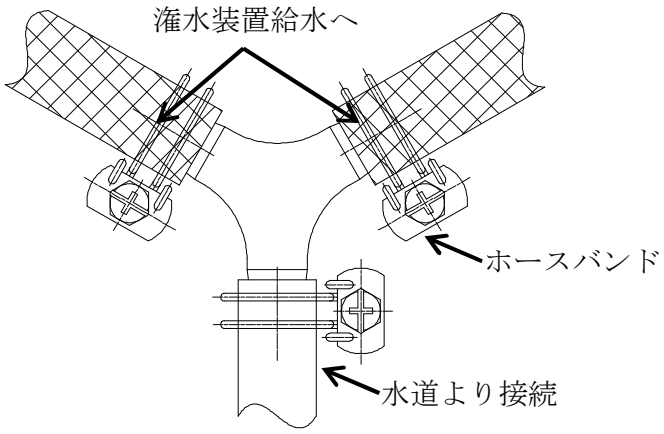
（取付け場所は「4.各部の名称」を参照ください）

6.9　潅水装置の組立

Y 型ホースジョイントに、付属のブレードホースを潅水装置の「給水」のところにつないでください。残った 1 ヶ所に水道からのホースをつないでください。

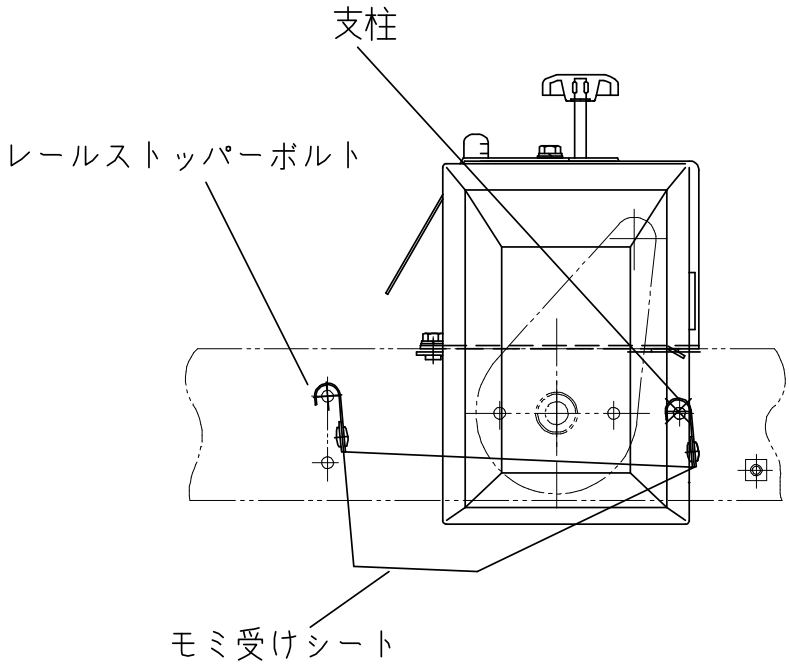
透明のホースを潅水装置「排水」のところにつないでください。

つないだホースは付属のホースバンド中からホースの太さに合うものを選んで固定してください。



6.10 モミ受けシートの組立

モミ受けシートをレールストッパーボルト・支柱に引っ掛けてください。

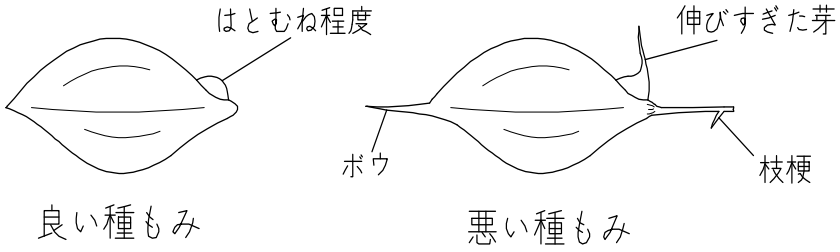


7. 運転及び操作

7.1　運転前の準備

(1) 種もみの処理・選別

- 種もみはゴミやボウ、枝梗を取り除き、育苗方法に従って、塩水選、消毒、浸種、芽出しを行ってください。　尚、**ボウ、枝梗は播種ムラの原因になるので特に注意して取り除いてください。**
- 種もみは「はとむね」位に芽出しをして、芽が伸びすぎないよう注意してください。又、手に付かない程度に陰干しをして、種もみの水分を十分切ってから播種してください。　**種もみの水切りが完全でなかったり、芽が伸びすぎていると「播種ムラ」の原因**になります。



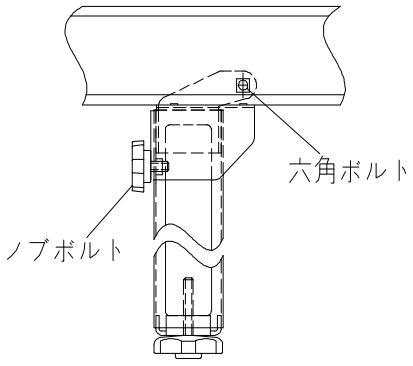
(2) 土の処理

- 覆土に使用する土は、よく乾燥していて４㎜目のフルイを通したものを使用してください。
- 床土に使用する土は５㎜目のフルイを通したものを使用し、床土の水分は、片手でかるく握って開いた時にかたまり、指で触るとすぐ崩れる程度にしてください。
- 水分の多い土は、ブリッジ（土がホッパーから出てこないこと）の原因となるので、特に注意してください。

(3) 本機の設置

平らな場所を選び、全体が水平になるよう脚の高さ調節ボルトで調節してください。

（注意）設置が悪いと苗箱が片寄り、「播種ムラ」、「潅水ムラ」等の原因になる場合もあるので、特に注意してください。



(4) 育苗箱

- 育苗箱は同じ種類のもので、「**ソリ**」、「**ネジレ**」のない箱を使用してください。
- 育苗箱の種類が同じものでない場合は、箱の高さで選別してください。（**箱の高さが異なると本機の再調整が必要**になります）

7.2　運転

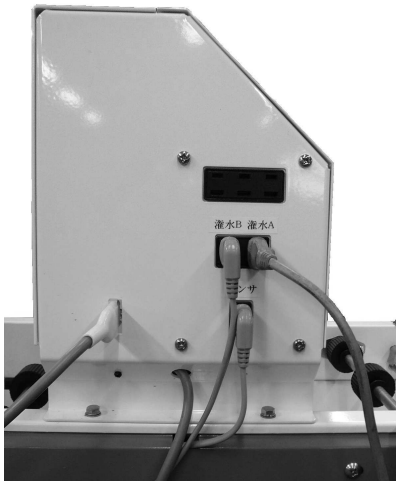
注）電源電圧は AC100V±5V を安定して供給してください。

適切な電源電圧でないと、故障や動作不良の原因となります。

各スイッチの操作

(1) 操作盤より出ている電源コードを単相 100V に差し込んでください。

(2) 潅水 A,B、センサコードを駆動部側面のコンセントに接続し、播種部のコードを駆動部側面のコネクタに差し込んでください。



(3) 操作盤裏のブレーカースイッチを『ON』にしてください。

- 「メインスイッチ」:搬送ローラーが作動します。
- 「播種部」: 播種ローラーが回ります。
- 「潅水Ａ，Ｂ」: 電磁弁が作動し、水が出ます。

(4) 本機はメインスイッチを『OFF』にしますと全停止します。

※　注）ブレーカースイッチでの全停止は行わないでください。

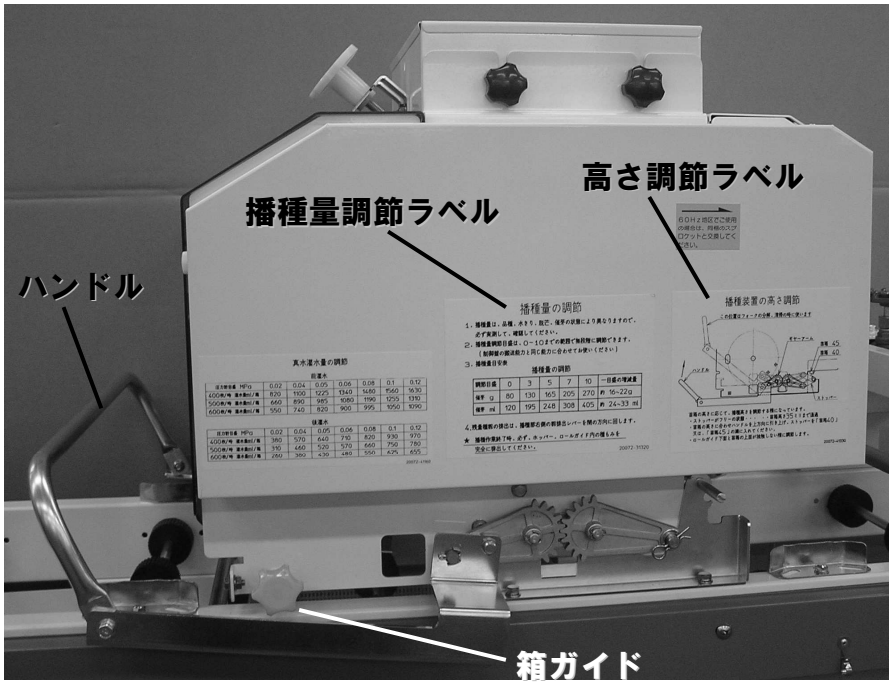
※　注）作業終了後は各スイッチを『OFF』にして、
電源コードをコンセントから必ず抜いてください。

※　注）駆動部サイドのサービスコンセントは、容量２５０Ｗまでとなります。

7.3　搬送速度の調節

本機搬送速度は、毎時 400、500、600 箱です。出荷時は毎時 500 箱で設定されています。能力切替えスイッチを操作することで搬送速度を変更できます。作業状況に応じて調節してください。

7.4　播種装置

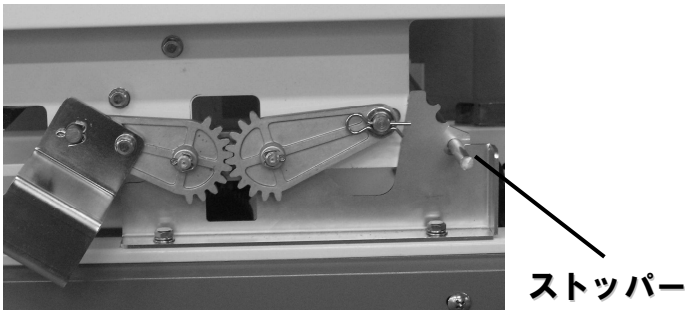


(1) 播種装置の高さ

育苗箱の高さに応じてホッパーの高さを 35、40、45 ㎜の３段階に調節することができます。

レバーを動かしてストッパーを好みの高さに合わせてください。 フリーの状態は 35 ㎜になります。

（注意）育苗箱の高さに対して必要以上高くすると、播種精度に影響します。箱に合わせた調節をしてください。



(2) 箱ガイドの調整

播種装置の下側にある箱ガイドは、調節ネジにて育苗箱が中心に来るように調整します。

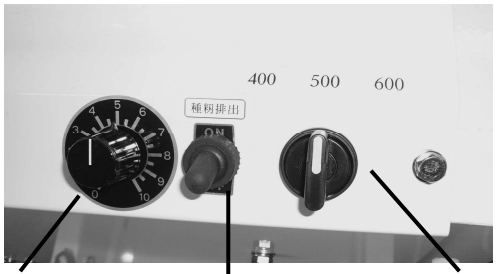
（注意）育苗箱が引っ掛からないよう、余裕（3～5 ㎜）をもって調節してください。

(3) 播種量の調節

① 播種量は、品種、水切り、脱芒、催芽の状態により異なりますので、必ず実測してください。

② 播種量調節目盛は、１～１０までの範囲で無段階に調節できます。

（制御盤の搬送能力と同じ能力に合わせてお使いください）



③ 播種量目安表

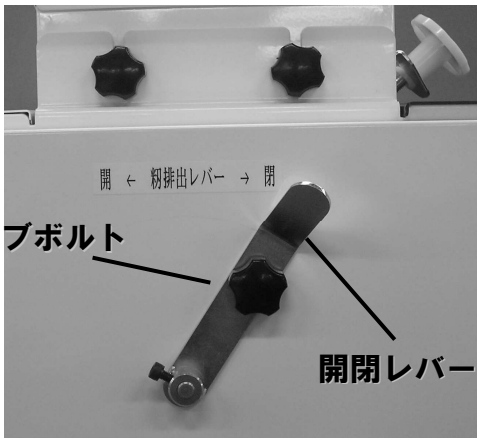
播種量の調節

調節目盛	0	3	5	7	10	一目盛の増減量
催芽 g	80	130	165	205	270	約 16～22g
催芽 ml	120	195	248	308	405	約 24～33mℓ

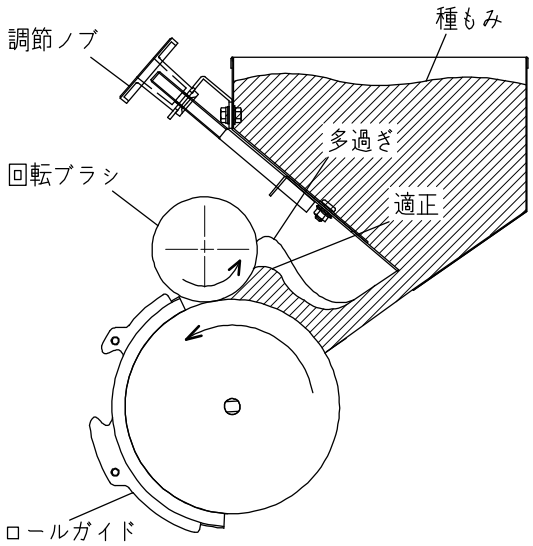
（参考） １合＝180mℓ ≒120ｇ（催芽）

⚠ 注意 取外したカバーは必ず取付けてください。
衣服が巻き込まれ傷害事故を起こすおそれがあります。

④　残量種籾の排出は、播種部右側の
籾排出レバーを開の方向に回します。
終了後は、必ず閉の位置に戻し、
ノブボトルで固定して下さい。

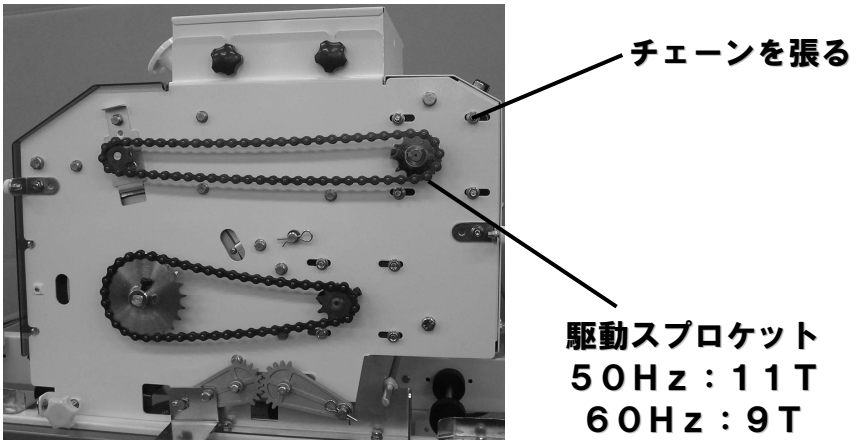


(4) 播種ホッパーのシャッター開口を調節ノブを回して調節してください。
図のように回転ブラシに対して良好な高さまで種もみが上がるようにしてください。
少ないと播種量が不安定になり、多過ぎると持ち帰りが多くなります。

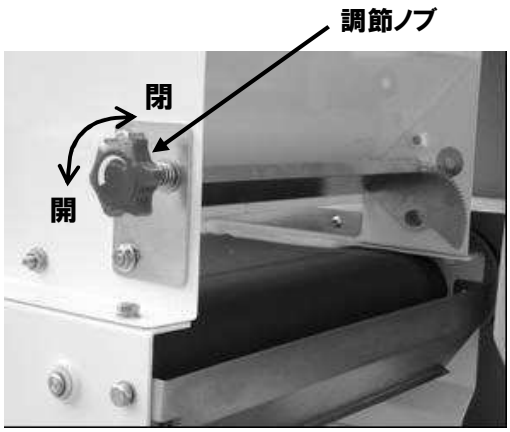


(5) 60Hz 地区スプロケット交換

60Hz 地区の時は、回転ブラシ駆動スプロケットを、11T から 9T に交換してください。モーター固定ネジを緩め、チェーンを張ります。



7.5　床土・覆土量の調節



(1)　床土・覆土量の調節はホッパーの側面にある調節ノブでシャッターの隙間を調節してください。

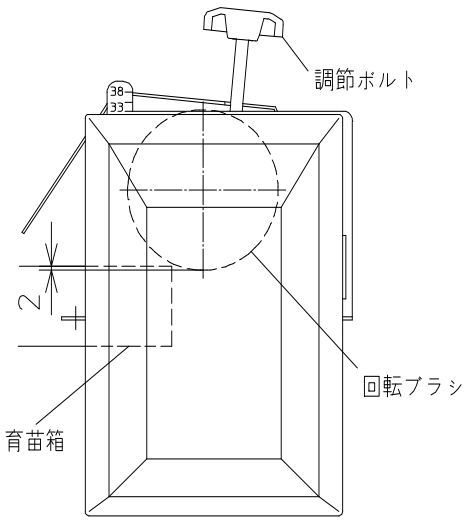
（注意）床土の繰出量が多いと回転ブラシによる土の持ち帰りが発生し床土上面の均一さがなくなります。

（注意）床土の繰出量が少ないと回転ブラシによる土の均しが不可となり床土上面の均一さがなくなります。

覆土は、粘質な土を避け乾いた土を使って種籾がかくれる程度に行います。

7.6　籾落し回転ブラシの調節

育苗箱の上面より２㎜程度下がる位置に回転ブラシがくるように、調節ボルトを回して合わせてください。



7.7　潅水量の調節

床土が必要とする潅水量は、床土の種類や乾燥状態により異なります。潅水量の調節が十分になされず、湿害や潅水不足を起こし、出芽、生育に支障をきたすことのないよう特に次のことに注意してください。

(1) 潅水量の決め方

① 床土の水分状態

乾燥している土は多く潅水し、湿った土は少なく潅水します。必要以上に潅水すると湿害を生じたり、逆に潅水不足だと種もみの根上がり現象を起こしたりします。

② 箱の種類

木箱の場合は、箱自体が水分を吸収するので潅水量をやや多めにします。また、プラスチック箱は水分が逃げにくいのでやや少なめに潅水します。

(2) 真水潅水する場合

① 水道のコックを開き、下表を参照しながら、使用する水圧に潅水装置側のバルブで調節してください。水道の元圧の変動が大きい場合はコックを全開にしてください。

真水灌水量の調節

前灌水

圧力計目盛 MPa	0.02	0.04	0.05	0.06	0.08	0.1	0.12
400枚/時 灌水量ml/箱	820	1100	1225	1340	1480	1560	1630
500枚/時 灌水量ml/箱	660	890	985	1080	1190	1255	1310
600枚/時 灌水量ml/箱	550	740	820	900	995	1050	1090

後灌水

圧力計目盛 MPa	0.02	0.04	0.05	0.06	0.08	0.1	0.12
400枚/時 灌水量ml/箱	380	570	640	710	820	930	970
500枚/時 灌水量ml/箱	310	460	520	570	660	750	780
600枚/時 灌水量ml/箱	260	380	430	480	550	625	655

20072-41160

② 育苗箱を1箱通し、床土入れ、均平、潅水して3分くらいたって**水分がやや落ち着いてから水の浸透状態を確認してください。**

7.8　薬剤潅水の仕方

後潅水装置は、**「リゾーブス菌」による苗立枯病の発生防止に使用**するもので潅水と同時に薬剤散布が出来るようになっています。

(1) 潅水量及び薬剤吸込み量

薬剤灌水量の調節(後灌水のみ)

能力（枚/時)	400	500	600
圧力計目盛(MPa)	0.04	0.04	0.06
薬剤灌水量(ml/箱)	515	410	420
薬剤吸込み量(ml/箱)	91	73	94

10リットル当たりの薬剤量(g)

500倍	110	137	106
800倍	69	86	66
1000倍	55	69	53

20072-41171

（注意）能力 400 箱/時で 1000ml 以下の薬剤潅水を行なう場合は、「8.3 注意事項」の「(4)薬剤潅水」を参照ください。

(2) 消毒液の作り方(ダコニール、ダコレート)

☆薬液消毒の防除基準は、一般に 500～1000 倍液を 1 箱当り 500mℓ 散布(1～0.5g)となっています。

(各地域の育苗指針、農業改良普及員の指導、薬剤の説明書などに従ってください。)

(例)播種機の能力が 400 枚/時で 800 倍のダコニール消毒液を散布する場合

① バルブで水圧を 0.04MPa にセットします。

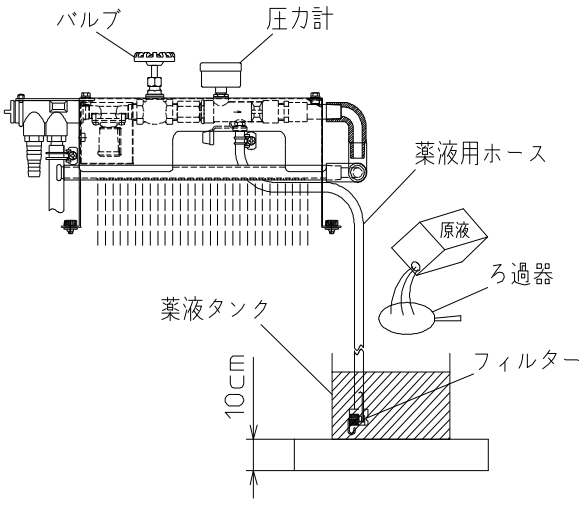
② 1 箱当たりの薬剤吸込み量は 91mℓ です。800 倍で散布する場合、表を参照して水 10ℓ 当り薬剤 69g の割合で調合してください。

③ 消毒液の必要量は、苗箱枚数×薬剤吸込み量です。100 箱育苗する場合 100 箱×91mℓ =9100mℓ =9.1ℓ

となり、9.1ℓ の消毒液が必要となります。

必要薬剤量=必要消毒液量(ℓ)÷10ℓ ×水 10ℓ 当たりの薬剤量(g)

よって 9.1ℓ ÷10ℓ ×69g=62.8g の薬剤が必要になります。



(注意)

(1) ダコニール、ダコレートとタチガレンの**同時使用、近接処理は薬害を生じるおそれ**がありますので避けてください。

(2) 薬液タンクは地上より 10 ㎝位上げてください。

(3) 薬剤が沈んでしまわないよう時々攪拌してください。

(4) 吸込み用ビニールホースの先端に付いている**フィルターが詰まると薬剤吸込み量が減少します。**時々確認し詰まっていたら掃除してください。

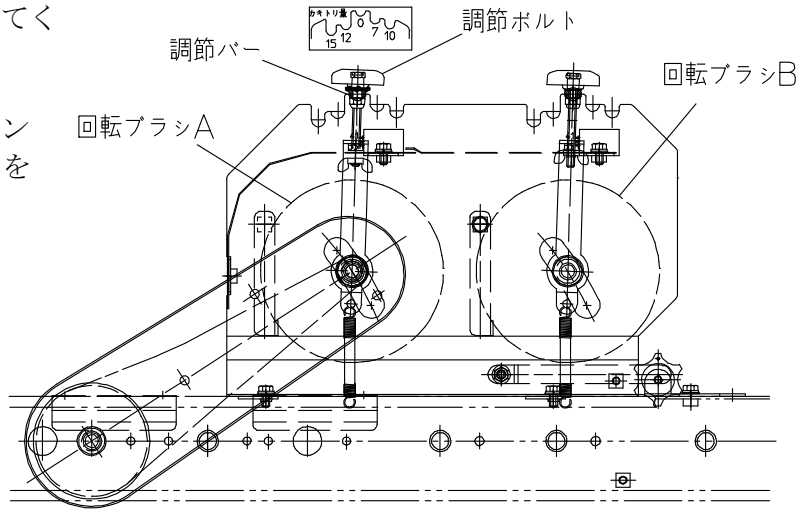
(5) 水和剤を使用する時は、原液をろ過器に通しますと目詰まりがなく正確な散布が出来ます。

7.9 ダブル回転ブラシの調節

警告 **調節はメインスイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて行ってください。**

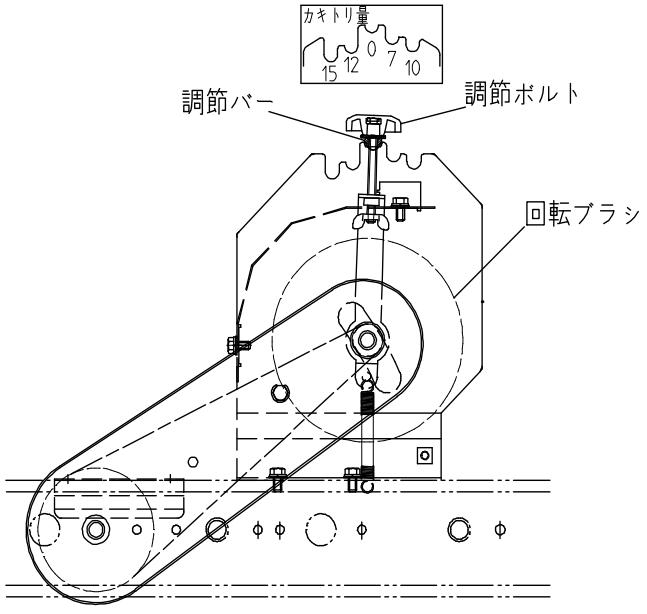
育苗箱の種類によって箱の高さが異なります。ご使用になる箱に合わせてください。

(1) 調節バーが回転ブラシスタンドの「0」の位置にあることを確認してください。
(2) 育苗箱の上面と回転ブラシA、Bのスキマが「0」になるように調節ボルトで合わせてください。
(3) 調節バーを移動してお好みのカキトリ量に合わせてください。



7.10 回転ブラシ（覆土）の調節

(1) 調節バーが回転ブラシスタンドの「0」の位置にあることを確認してください。
(2) 育苗箱の上面より 1～2 ㎜下げた位置に回転ブラシがくるように調節ボルトで合わせてください。



7. 11 スミ取リ装置（前）の調節

このスミ取リ装置（前）は、育苗箱の前側の隅を取る装置です。箱の種類により高さが異なりますので、ご使用する箱に合わせてください。

① カキトリ調節座の一番高い所にスミ押シ金具の調節ネジが乗っている事を確認してください。

② 育苗箱の上面とスミ押シ金具の先端のスキマが『0』になるよう、調節してください。

③ カキトリ調節座を回すと『7 ミリ』『10 ミリ』『12 ミリ』カキトリにセットされます。
また、カキトリ調節座を解除すると『15 ミリ』カキトリになります。

④ 箱ガイドを調節ネジで育苗箱に合わせ、スミ押シ金具が箱の中に入る様調節してください。

7. 12　スミ取り装置（後）の調節

このスミ取り装置（後）は、育苗箱の後側の隅を取る装置です。

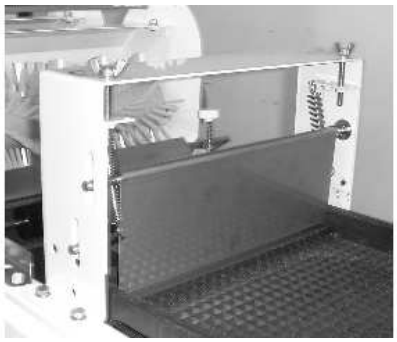
箱の種類により高さが異なりますので御使用する箱に合せてください。

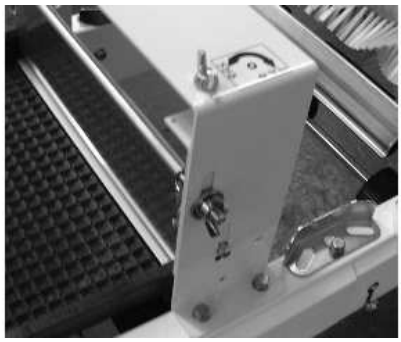
(1)　カキトリ板を箱に対して垂直に合せます。

(2)　土を押す位置に調節ボルトにて上下させ合わせます。

(3)　位置がきまりましたら、チョウナットにて固定します。

※土の上面より 1～2 ㎜程度スキマがある様にしてください。





8. 点検整備及び保管上の注意

8.1　手入れ

(1) アース

感電防止の為、アースは必ず設置してください。

(2) 潅水装置

① 薬剤潅水を行った時は、真水を吸い込ませ吸込ノズルの内部を良く洗浄してください。

② 吸込ノズルは、ノズルブラシで掃除をし、水を勢い良く出してパイプ内を綺麗にしてから、ゴム栓をしてください。

③ 吸込ノズルは冬季の凍結から守る為使用後は必ず**水抜き**をしてください。水抜きが不完全ですと、来季ご使用時にサビ等で目詰まりの原因になります。

(3) 洗浄

① 機械を洗浄する場合は、駆動モーター、操作盤への放水は避けて、布等でふき取るようにしてください。

② 床土・播種覆土の各フレームカバーを外し、フレーム内の泥土を排除してください。

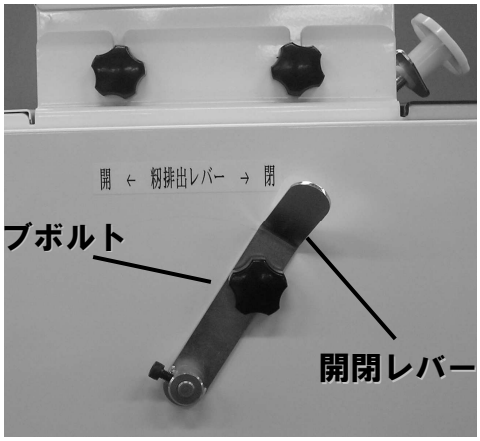
(4) 残留種籾

播種作業終了時は、ホッパー内の種もみが残らないようにしてください。(ロールガイドが破損するおそれがあります)

① ホッパー内に残った種籾は、ホッパー左側のカバーにノブボルトで固定されている開閉レバーを開の方向へ回します。

② 播種部のスイッチを「ON」し播種ローラー内にある種もみを排出してください。

③ **終了後は、播種部のスイッチを「OFF」**にし、開閉レバーを必ず閉の位置に戻しノブボルトで固定してください。



(5) 注油

洗浄後、良く乾かしてから、各軸受及びローラーチェンに必ず注油してください。

① 床土・播種覆土の各フレーム内のローラーチェン。

② コンベアジョイントのローラーチェン。

③ 床土入れ・覆土の各軸受。

④ 播種部内のローラーチェン。

⑤ 各回転ブラシ装置の軸受。

8.2　保管上の注意

(1) 本機は直射日光を避けたところに保管してください。
(2) 雨を避け、平坦なところに保管してください。

8.3　注意事項

(1) 播種回転ブラシの手入れ
毛が変形してしまうと播種精度に影響しますので、変形に注意してください。
・水洗いによる変形。
・エアーブロー使用による変形。
・物を置いた為に発生した変形。
等

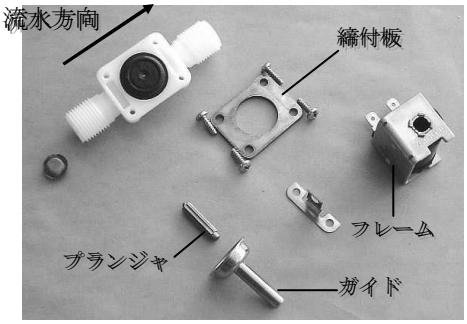
(2) ロールガイド
表面のシワに関しては、播種精度上問題はありません。
但し、磨耗、石などの混入により破れが発生した場合は、使用不可となりますので交換となります。

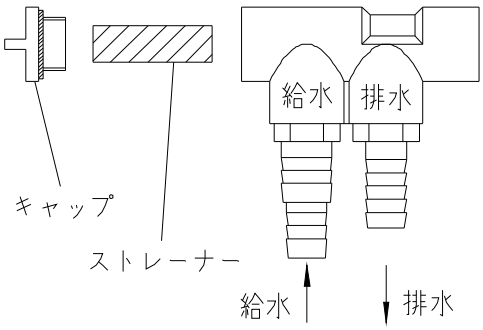
(3) 中間コード（付属品）
播種機周辺機器をご使用になる際、センサコードが短く接続出来ない場合は、付属の中間コード（700mm）をご使用ください。

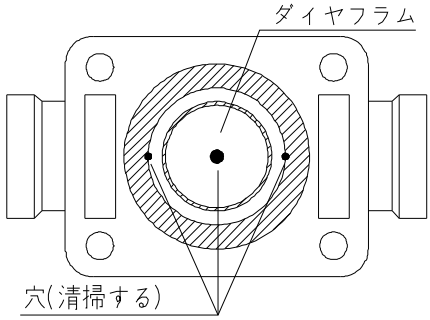
(4) 薬剤潅水
搬送速度が能力 400 箱/時の設定で、1000ml 以下の薬剤潅水を行なう場合は、前潅水を使用してください。
①薬剤ホースを後潅水から前潅水に組み替えてください。
②潅水量及び薬剤吸込み量は下表を参考にしてください。
（注意）薬液はこぼれる分を考慮してやや多めに用意して下さい。

圧力計目盛 Mpa		0.02	0.03	0.04	0.05
薬剤灌水量 ml/箱		775	915	1050	1140
真水灌水量 ml/箱		750	880	1000	1100
薬剤吸込量 ml/箱		95	125	150	175
薬剤散布倍率	500 倍	105	80	67	57
	800 倍	66	50	42	36
	1000 倍	53	40	34	29
		水 10L 当りの薬剤量(g)を示す。			

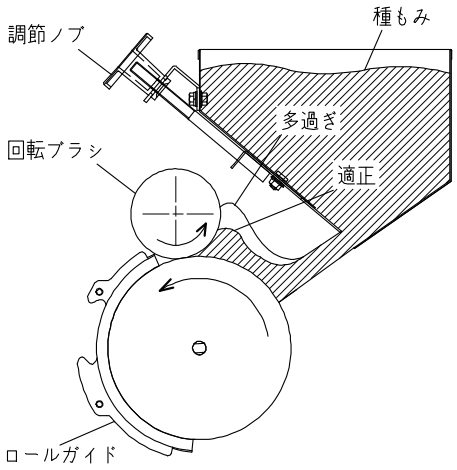
9. 故障の診断と処置

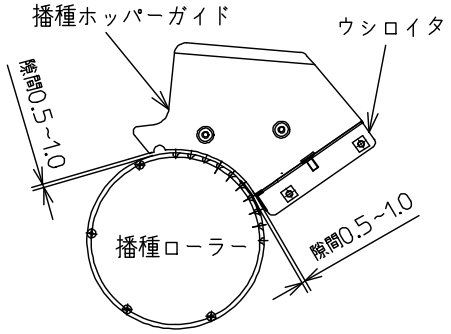
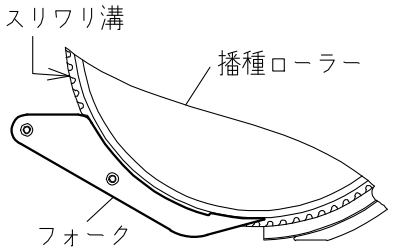
<table>
<tr><th>現象</th><th>原　　因</th><th>処　　置</th></tr>
<tr><td>モーターが動かない</td><td>(1) 電源コード入れ忘れ。
『メインランプ消灯』
(2) メインスイッチが「ON」になっていない。『メインランプ消灯』
(3) ブレーカーが「ON」になっていない。</td><td>・AC100V に接続する。
電源電圧の許容範囲は 100V±5V
・スイッチを「ON」にする。
・ブレーカーを「ON」にする。</td></tr>
<tr><td>水の出が悪い・水が出ない</td><td>(1) メイン、カンスイの各スイッチが「ON」になっていない。
(2) 水道の蛇口が開かれていないか､水道ホースが曲がっている。
(3) 潅水ノズルが詰まっている。
(4) 減圧弁内のストレーナーの目詰まり。
(5) ウォーターバルブの目詰まり。
③ ダイヤフラムの目詰まり。
 

(6) 井戸水など自然水を使用した為潅水装置内にて目詰まりが発生。</td><td>・メインスイッチを「ON」にしてからカンスイスイッチを「ON」にする。
・水道の蛇口を開き水道ホースの曲がりを直す。
・同梱のノズルブラシで掃除をする。ノズルの穴を針などで掃除をする。
・キャップを外し、中にあるストレーナーを清掃する。
 

・メイン・カンスイスイッチを「ON」にしたとき、ウォーターバルブは「ピー」と音がするのに水が出ない場合は、ウォーターバルブを分解してダイヤフラムの 3 つの穴(矢印部)を清掃する。
 

・清水を使用する。
・目詰まり箇所の掃除をする。</td></tr>
</table>

現象	原　　因	処　　置
ノズルの中に空気が入る	(1) 吸込ノズル下部の吸込口のプラグが外れている。 (2) 吸込口が割れている。	・プラグを付ける。 ・吸込口が割れている物は新品と交換する。
播種ムラになる	(1) ブラシの手前に種籾がない。	・ホッパー内のシャッターを開く。 
	(2) 種籾の処理が適切でない。	・「種籾の処理」を参照ください。
	(3) 種もみの水切りが不十分な為､播種ローラーの溝から落ちないで共回りしてしまう。	・水分を十分に切る。 脱水機を利用する場合は、最低３分は運転してくだい。
苗箱の左又は右側が厚まきになる	(1) 回転ブラシの左右の平行が出ていない｡播種機の左右のレベルが出ていない。	・軸受板の調節穴を目安に、左右の平行を出してください。
	(2) 回転ブラシにより跳ね飛ばされた種モミが低い方に溜まる。	・播種機の左右が平行になる様に、レベルを出してください。

現象	原　　因	処　　置
苗箱の中央が厚まきになる	・回転ブラシの中央部が細くなる為。 （毛の絡みあい）	・種モミの水切りを十分に行う。 ・回転ブラシの中央部に、ドライバー等を差し込んで、絡まった毛を解いてください。 ・回転ブラシの交換をお勧めします。
播種ローラーの動きが悪い(動かない)	(1) ロールガイドと播種ローラーの間に残量種籾が有り、ロールガイドに食い込んでいる。	・ロールガイドを取外し両方とも清掃する。 ・ロールガイドが破損している場合は交換する。
	(2) 播種ホッパーガイド（左右）、籾排出シャッターが、播種ローラーに接触している。又、スキマが大きい為種もみが挟まってしまう。 （注）そのままの状態で使用すると播種ローラーが磨耗します。	・サイドカバーを外しサイドフレームの覗き穴からスキマを確認しながら調整する。 尚、スキマは 0.5～1.0 ㎜になるように調整してください。 ※残留種籾排出後は、開閉レバーの締め忘れに注意してください。 
	(3) フォークと播種ローラーのスリ割り溝部に、種籾のカス等が溜まり回転が重くなる。	・フォークを取り外し、フォークに付着しているカス、ゴミ等を取り除く ・播種ローラーのスリ割り部をカッターの刃等で、カス、ゴミ等を除去する。 

現象	原　　因	処　　置
播種ローラーの動きが悪い(動かない)	(4) 籾受けカゴに落ちた種籾をホッパーに戻し、土、水、泥が混入した。	･籾受けカゴに落ちた種籾はホッパーに戻さないでください。 再利用の際は、洗浄し適度な乾燥状態にしてください。
床土・覆土ホッパーの動きが悪い	(1) 土投入の際､ホッパーから外れ機械内部に土が入り込んでしまった。	･ホッパー内に投入するようにしてください。
	(2) 土受けに落下した土をホッパーに投入し、濡れた土が混入した。	･濡れた土はホッパーに戻さないでください。
	(3) コンベアベルトがスリップし土が繰り出さない。	･コンベアベルトを張る。
	(4) ベルトローラーに土が付着し､コンベアベルトの動きが悪い。	･コンベアベルト内及び、ベルトローラーの掃除をする。
床土回転ブラシが均平にならない	(1) 回転ブラシの高さ調節が出来ていない。	･高さ調節をする。
	(2) 回転ブラシに稲わら等が付着し､カキトリが出来ない。	･稲わら混入の土は使用しない。回転ブラシに付着した稲わら等を取り除いてください。
	(3) 土が湿っている為､ダンゴ状となりブラシ、スクレパーに付着する。	･土の水分調整に注意する。付着した土の塊は取り除いてください。
	(4) 土の繰出量が多すぎて､回転ブラシによる土の持ち帰りが発生する｡土の繰出量が少なすぎて､回転ブラシで土を均せない。	･床土上面を均す程度に繰出量を調整する。
	(5) スミトリ装置で床土上面を掻き取ってしまう。	･床土上面より 1 ㎜程度上面に調整する。

実り豊かな明日をひらく
株式会社 スズテック
〒321-0905　宇都宮市平出工業団地44－3
代　表／TEL.028(664)1111　FAX.028(662)5592
URL　http://www.suzutec.co.jp

20072-41191